

2016年度全国生協連グループ 社会福祉事業等助成事業
ひもときシートを活用した効果的認知症ケア事例の収集分析事業
 —ものとりれ妄想・収集に焦点を当てて— (概要)

ものとりれ妄想の理解とケアについて

軽減ケースで実施されたケア

ワーキングメンバーの意見のまとめ

- 背景に「**不安感**」があるので、もの盗られ不安等の方が適切ではないか。
- 他の利用者に慣れていないなど、「**他者との関係性**」の影響が大きい。
- 認知症の人が盗られたと思っている物や誰が盗ったと誤解しているかなど、**ものや人が理解のヒント**になる。
- 実際に何かを紛失している場合があるので、**無くさないようなケアを念頭に置く**ことが必要。
- 具体的に盗られたという訴えがなくとも、何かをずっと探している場合もある。**訴えがないことだけをもって、良しとしない。**

【調査概要】

- データ収集担当: 認知症介護指導者
- 調査時期: 平成29年10月1日～12月15日
- 調査場所: グループホーム、小規模多機能型居宅介護支援事業所、デイサービス
- 調査方法: 縦断介入研究(2週間～1か月)・ひもときシート利用
- 評価指標: NPI-Q、訴えの時間×重症度(指導者評価)
- 分析: NPI-Qまたは、訴えの時間×重症度が軽減した4事例で実施されたケア及び中止されたケアを研究担当者により分類。
- 認知症の人の属性

原因疾患: アルツハイマー型2名、認知症(鑑別なし)2名
 要介護度: 要介護1:1名、要介護2:2名、要介護3:1名

実施時期	ケアの分類	具体例
事前	再アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本人の中核症状の進行度をアセスメントする ■ 再アセスメントを行ない、理由のヒントをつかむ ■ 生活歴を再度、ご家族に確認する ■ ケアカンファレンス ■ 基本対応表の見直し
	疾患や痛み等の理解	<ul style="list-style-type: none"> ■ 痛みへの対応 ■ パーキンソン病の症状について、スタッフ向け勉強会を行う
	一緒に整理する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 収納用のBOXを用意し、本人とスタッフが一緒に整理する ■ 物やタンスに掲示する
事後	大切にされている実感が得られるようなケア	<ul style="list-style-type: none"> ■ 1時間おきに困りごとを確認する(本人が宿泊室にいるときは、1時間間隔で様子を伺い、困りごとがないか尋ねる) ■ 本人の好みを調べ楽しめる活動を入れる(お気に入りの唄を確認して、合唱では必ずその歌を入れる) ■ 他の利用者を交えて複数で話を聞く ■ 本人の好きな話をする ■ 話を聞く(訴えを傾聴する)
	意識をそらす	<ul style="list-style-type: none"> ■ 違う話題になるように仕向ける
	他利用者との間に入る	<ul style="list-style-type: none"> ■ 盗られたという訴えが生じた場合、他の利用者との間に入る ■ 認知症がない他のご利用者には症状から来るとられ妄想の説明を行い、理解を深める

軽減ケースで実施を取りやめたケア

- 盗っていないことを説明する
- 症状が出たのちに役割を提示する(盗られたとなった時、食事の準備をしてもらう)
- 一緒に探す
- 不穏な時は刺激を避ける
- 安定しているときに部屋を整理する

2016年度全国生協連グループ 社会福祉事業等助成事業
 ひもときシートを活用した効果的認知症ケア事例の収集分析事業
 —ものとり妄想・収集に焦点を当てて— (概要)

収集の理解とケアについて

軽減ケースで実施されたケア

ワーキングメンバーの意見のまとめ

- 背景に「**手元においておきたい**」「**(集めているものが)必要だ**」という気持ちがある。
- もの盗られ妄想と同様に背景に「**不安感**」がある。集めたいという気持ちを自己コントロールできていない状態である。
- **ほしいものを集めること自体は悪くない**ため、収集を過度に抑制しないでよい。ただし、**不安を背景にして集めているとすると、解消すべき**である。

【調査概要】

- データ収集担当: 認知症介護指導者
- 調査時期: 平成29年10月1日～12月15日
- 調査場所: グループホーム
- 調査方法: 縦断介入研究(2週間～1か月)・ひもときシート利用
- 評価指標: NPI-Q、訴えの時間×重症度(指導者評価)
- 分析: NPI-Qまたは、訴えの時間×重症度が軽減した3事例で実施されたケア及び中止されたケアを研究担当者により分類。
- 認知症の人の属性
 原因疾患: アルツハイマー型2名、認知症(鑑別なし)1名
 要介護度: 要介護2:1名、要介護3:1名、要介護4:1名



研究をふまえDVDを作成しました。

実施時期	ケアの分類	具体例
事前	再アセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ■ 再アセスメントを行い、持っていく理由のヒントをつかむ ■ なぜ持っていくのか本人に改めて聞いてみる ■ 本人の中核症状の進行度を再アセスメントする ■ 本人が認識できる書き言葉と話し言葉を再確認する
	認知症の人が分かるように情報提供する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「私わからないの」ということがあるので、ゆっくりと分かりやすく説明していく ■ わかりにくい会話の中でも、本人の望みや訴えを理解する努力をする ■ 活動を行う際、一度説明した後でも、隣で一緒に同じ活動を行う ■ 言葉かけをセーブして、最小限の言葉かけをする
	認知症の人の話をよく聞く	<ul style="list-style-type: none"> ■ 本人の言葉に耳を傾けていく
	持っていくことを否定しない	<ul style="list-style-type: none"> ■ 持っていったらダメ等言いたくなるが、言わないように統一
	ほしいものを渡す、すぐに利用できるようにする	<ul style="list-style-type: none"> ■ 排泄後は、大事に持って下さいと、ペーパーを1枚手渡す。または腹部から出てきたペーパーを手渡す。 ■ 排泄時、腹部から靴下など出てきたら預かり、本人のタオル等を腹部に入れてもらう ■ 他者の居室のハンガーに掛っている服を着てくるので、居室に衣類かけを設置し、好きな時に着れるようにする
	活動中無くさないよう注意する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 良くなくすものは、本人の動作を観察し、物がなくならないように動作を手伝う
事後	整理整頓をする	<ul style="list-style-type: none"> ■ 毎朝居室内の整理整頓をする。
	他利用者との間に入る	<ul style="list-style-type: none"> ■ 他者との間に入り、会話や交流が持てるように支援していく。
	文字で情報提供する	<ul style="list-style-type: none"> ■ 紙類が置いてある傍らに『皆で使用します。必要な分だけお持ちください』を表示してみる

軽減ケースで実施を取りやめたケア

- 何をもって行ったか、どこにもっていったかをさりげなく確認する
- 自分以外のものをもって行こうとされる際、「これは●●さんのものではありません」と伝える